

令和4年度

埜町上水道事業会計決算

審査意見書

目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	提出を受けた書類	1
第4	審査の要領	1
第5	審査の概要	2
1	事業状況	2
2	収支決算書	3
3	損益計算書	5
4	貸借対照表	6
5	滞納未収金及び不納欠損の状況	7
6	企業債の状況	7
7	主な経営指標	8
第6	審査意見	9

埜町監査委員



令和4年度埴町上水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の対象

令和4年度埴町上水道事業会計決算

第2 審査の期間

令和5年7月21日から令和5年8月4日まで

第3 提出を受けた書類

- ア 令和4年度埴町上水道事業決算報告書
- イ 財務諸表
- ウ 令和4年度埴町上水道事業報告書
- エ 地方公営企業法施行令第23条に規定する書類

第4 審査の要領

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属書類について、関係法令に準拠して作成されているか、数値に誤りがないか、当事業の経営成績及び財務状態を的確に把握し表示されているかについて必要と思われる審査手続きを用いて検証した。また、事業経営に当たり経済性の発揮や公共の福祉の増進が図られているかについても意を用い審査した。

なお、現金預金の残高確認及び通帳・証書類の検証については別に例月出納検査において実施し、その結果も踏まえて審査した。

第5 審査の概要

1 事業状況

当年度末現在の給水人口は、前年度と比較して111人（1.7%）減少したが、給水世帯数は8世帯（0.3%）増加している。

年間総給水量は756,986m³で前年度と比較して7,580m³（1.0%）減少した。また、年間有収水量も597,832m³で前年度と比較して5,985m³（1.0%）の減となり、有収率は79.0%で前年度と同率であった。1m³当たりの給水収益は155.96円で前年度に比べ0.2%減少し、1m³当たりの給水原価は306.48円で前年度に比べ1.4%減少した。

事 項	単 位	令和4年度	令和3年度	比較		備 考
				増減	増減率(%)	
給 水 人 口	人	6,389	6,500	△ 111	△ 1.7	年度末現在
給 水 世 帯 数	世帯	2,536	2,528	8	0.3	年度末現在
普 及 率	%	79.0	78.7	0.3		行政区域内人口割合
配 水 量	m ³	756,986	764,566	△ 7,580	△ 1.0	年間総量
有 収 水 量	m ³	597,832	603,817	△ 5,985	△ 1.0	年間総量
有 収 率	%	79.0	79.0	0.0		
1m ³ 当たり給水収益 (供給単価)	円	155.96	156.33	△ 0.37	△ 0.2	給水収益／有収水量
1 m ³ 当 たり 給 水 原 価	円	306.48	310.77	△ 4.29	△ 1.4	(経常費用－委託工事費－長期前受金戻入)／有収水量

2 収支決算書（仮受消費税及び地方消費税を含む）

(1) 収益的収入及び支出

(単位 円)

区 分	当初予算額 (A)	決算額 (C)	当初予算比較 (C)-(A)	当初予算比 (C)/(A)%	
	予算現額 (B)		予算現額比較 (C)-(B)	予算現額比 (C)/(B)%	
収 入	営業収益	105,172,000	108,350,634	3,178,634	103.0
		104,272,000		4,078,634	103.9
	営業外収益	163,688,000	159,005,010	△ 4,682,990	97.1
		160,307,000		△ 1,301,990	99.2
	特別利益	1,000	0	△ 1,000	0.0
		1,000		△ 1,000	0.0
計	268,861,000	267,355,644	△ 1,505,356	99.4	
	264,580,000		2,775,644	101.0	
支 出	営業費用	230,643,000	220,486,381	△ 10,156,619	95.6
		232,747,000		△ 12,260,619	94.7
	営業外費用	12,163,000	12,147,940	△ 15,060	99.9
		12,163,000		△ 15,060	99.9
	特別損失	51,000	5,115	△ 45,885	10.0
		51,000		△ 45,885	10.0
	予備費	500,000	0	△ 500,000	0.0
		500,000		△ 500,000	0.0
	計	243,357,000	232,639,436	△ 10,717,564	95.6
		245,461,000		△ 12,821,564	94.8
収支差引額	25,504,000	34,716,208	9,212,208		
	19,119,000		15,597,208		

本年度の収益的収入の決算額は、267,355,644円で前年度比603,756円の増となった。

営業収益では給水収益は減（△1,023千円）となったが、営業外収益では前年度より増額になった。

収益的支出の決算額は、232,639,436円で前年度に比べ7,950,943円の減となった。営業費用の原水及び浄水費、配水及び給水費が電気料金の高騰により増加したが、職員の人事異動による総係費の減、減価償却費及び支払利息の減少が主な要因である。

(2) 資本的収入及び支出

(単位 円)

区 分	当初予算額 (A)	決算額 (C)	当初予算比較 (A)-(C)	当初予算比 (C)/(A)%	
	予算現額 (B)		予算現額比較 (B)-(C)	予算現額比 (C)/(B)%	
収 入	企 業 債	0	0	-	
		0	0	-	
	国 庫 補 助 金	0	0	-	
		0	0	-	
	他 会 計 負 担 金	0	0	-	
		0	0	-	
計	0	0	0	-	
	0	0	0	-	
支 出	建 設 改 良 費	133,811,000	80,830,036	△ 52,980,964	60.4
		92,852,000		△ 12,021,964	87.1
	企 業 債 償 還 金	82,448,000	82,447,852	△ 148	100.0
		82,448,000		△ 148	100.0
	計	216,259,000	163,277,888	△ 52,981,112	75.5
		175,300,000	163,277,888	△ 12,022,112	93.1
収支差引額	△ 216,259,000	△ 163,277,888	52,981,112		
	△ 175,300,000		12,022,112		

資本的収入は企業債借入や国庫補助金を伴う大きな建設事業の実施がなかったため、他会計負担金を含め決算額としての計上はなかった。

資本的支出の合計は163,277,888円で前年度比70,075,324円の増となった。これは、渋井第2踏切横断配水管布設替工事による建設改良費の増(53,644千円)及び企業債償還金の増(繰上げ償還)が主な要因である。

この結果、資本的収支の差引収支額は△163,277,888円となったが、この資本的収支の差引不足額は、次表のとおり消費税の資本的収支調整額6,854,193円、利益剰余金40,000,000円、現金支出を伴わない減価償却費等による内部留保資金116,423,695円によって補てんされた。

補てん財源内訳	過年度分	当年度留保額	補てん可能額	当年度補てん額	補てん財源残額
消費税等資本的収支調整額	円 0	円 6,854,193	円 6,854,193	円 6,854,193	円 0
利益剰余金	233,652,196	66,534,531	300,186,727	40,000,000	260,186,727
損益勘定留保資金	88,027,046	83,271,607	171,298,653	116,423,695	54,874,958
計	321,679,242	156,660,331	478,339,573	163,277,888	315,061,685

3 損益計算書

区	分	令和4年度	令和3年度	比較増減	増減率
		千円	千円	千円	%
営	業 収 益	99,027	99,933	△ 906	△ 0.9
	給 水 収 益	93,240	94,394	△ 1,154	△ 1.2
	そ の 他 営 業 収 益	5,787	5,539	248	4.5
営	業 費 用	214,898	219,143	△ 4,245	△ 1.9
	原 水 及 び 浄 水 費	30,653	29,800	853	2.9
	配 水 及 び 給 水 費	13,997	10,393	3,604	34.7
	総 係 費	43,152	46,227	△ 3,075	△ 6.7
	減 価 償 却 費	126,118	132,346	△ 6,228	△ 4.7
	そ の 他 営 業 費 用	978	377	601	159.4
営	業 利 益	△ 115,872	△ 119,209	3,337	2.8
営	業 外 収 益	154,559	157,382	△ 2,823	△ 1.8
営	業 外 費 用	12,148	13,793	△ 1,645	△ 11.9
経	常 利 益	26,539	24,380	2,159	8.9
特	別 利 益	0	0	0	0.0
特	別 損 失	5	1	4	400.0
当	年 度 純 利 益	26,535	24,379	2,156	8.8
前	年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	0	0	0	0.0
そ	の 他 未 処 分 剰 余 金 変 動 額	40,000	0	40,000	0.0
当	年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	66,535	24,379	42,156	172.9

営業収益の給水収益は給水人口の減少により、前年度を下回った。また、営業外収益は長期前受金戻入及び雑収益（下水道管路情報システム更新負担金の減）の減少により2,823千円減額となっている。

営業費用は電気料金の高騰により配水及び給水費が3,604千円の増額で、職員の人事異動により総係費で3,075千円減となり、また減価償却費も6,228千円減となり、結果、4,245千円の減額となった。

営業外費用では、支払利息が減少したことにより1,685千円が減額となった。その結果、今年度の純利益は26,535千円と昨年度と比べ、2,156千円増額となった。

4 貸借対照表

		科目	令和4年度	令和3年度	増減額	増減率
資産	固定資産	土地	千円 49,496	千円 49,496	千円 0	% 0.0
		建物・構築物	1,980,872	2,021,379	△ 40,507	△ 2.0
		その他	203,262	214,924	△ 11,662	△ 5.4
		小計	2,233,630	2,285,798	△ 52,168	△ 2.3
	流動資産	現金・預金	266,860	319,982	△ 53,122	△ 16.6
		未収金	9,999	5,834	4,165	71.4
		その他	357	484	△ 127	△ 26.2
		小計	277,216	326,300	△ 49,084	△ 15.0
	合計		2,510,846	2,612,098	△ 101,252	△ 3.9
	負債	固定負債	企業債	629,252	723,817	△ 94,565
小計			629,252	723,817	△ 94,565	△ 13.1
流動負債		企業債	80,638	68,520	12,118	17.7
		未払金	1,320	1,405	△ 85	△ 6.0
		引当金	2,030	2,886	△ 856	△ 29.7
		その他	48	622	△ 574	△ 92.3
		小計	84,036	73,433	10,603	14.4
繰延収益		長期前受金	1,254,724	1,254,724	0	0.0
		長期前受金収益化	△ 515,677	△ 471,852	△ 43,825	9.3
		小計	739,047	782,872	△ 43,825	△ 5.6
計		1,452,334	1,580,121	△ 127,787	△ 8.1	
資本		資本金	794,773	794,773	0	0.0
		剰余金	資本剰余金	3,551	3,552	△ 1
	利益剰余金		260,187	233,652	26,535	11.4
	小計	263,738	237,204	26,534	11.2	
	計		1,058,512	1,031,977	26,535	2.6
負債資本合計		2,510,846	2,612,098	△ 101,252	△ 3.9	

(1) 資産について

固定資産は、令和4年度においては、配水管布設替工事があったものの、各資産の減価償却額が上回り、前年度に比べ52,168千円（2.3%）減少し、2,233,630千円となった。

流動資産は277,216千円（現金・預金266,860千円、水道料未収金などの未収金9,999千円、量水器などの貯蔵品357千円）である。

(2) 負債について

負債の総額は1,452,334千円で前年度に比べ127,787千円（8.1%）減少している。

その他の前年比は固定負債△94,565千円、流動負債10,603千円、繰延収益△43,825千円である。

(3) 資本について

資本の総額は1,058,512千円で、前年度より26,535千円増加した。

5 滞納未収金及び不納欠損の状況

(単位：人、件、千円)

区 分	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	人数	件数	金額(千円)	人数	件数	金額(千円)	人数	件数	金額(千円)
未収給水収益	586	590	3,383	573	591	3,435	547	572	3,337
滞納未収金	5	30	97	7	60	330	10	70	424
うち不納欠損額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
差引残額	5	30	97	7	60	330	10	70	424

未収給水収益は、3,383千円であったが、そのうち過年度分の滞納未収金は97千円（30件）であった。昨年度の不納欠損処分はなかったため翌年度繰越の滞納未収金も同額となる。

6 企業債の状況

区分	前年度末残高	当年度発行額	当年度償還額		今年度末残高	残高増減
			元金	利子		
企業債	792,337	0	82,448	12,147	709,889	△ 82,448

今年度末における企業債残高は709,889千円で、前年度に比べ82,448千円減少している。

7 主な経営指標

指標	単位	4年度	3年度	2年度	(R3)平均	算出式	摘要
1. 事業の概況							
普及率 (対計画給水人口)	%	83.0	84.4	85.2	77.0	現在給水人口 / 計画給水人口 × 100	給水区域に占める水道利用人口の割合
平均有収水量	ℓ	256.0	254.0	258.0	320.0	1日平均有収水量 / 現在給水人口	一人当たりの水道使用量
2. 経営の健全性・効率性							
經常収支比率	%	111.7	110.5	106.7	105.3	經常収益 / 經常費用 × 100	經常的収支の均衡度を表す。100%未満は經常損失を意味する。
流動比率	%	329.9	444.4	401.9	305.3	流動資産 / 流動負債 × 100	短期債務に対する支払い能力を表す。100%以下は不良債務発生を示す。
企業債残高対給水収益比率	%	761.4	839.4	891.3	561.3	企業債現在高 / 給水収益 × 100	企業債残高の規模を表す。
料金回収率	%	50.9	50.3	49.7	82.8	供給単価 / 給水原価 × 100	給水費用がどの程度水道料金で賄われているかを示す。
供給単価	円 / m ³	156.0	156.3	156.0	190.7	給水収益 / 年間総有収水量	1 m ³ の水の平均収入額
1カ月20 m ³ 当たり家庭用料金	円	3,080	3,080	2,939	3,729		
給水原価	円 / m ³	306.5	310.8	313.9	224.8	(經常費用 - (受託工事費 + 材料等売却原価 + 付帯事業費 - 長期前受金戻入) / 年間総有収水量)	1 m ³ の水を作るのにかかる費用
固定資産使用効率	m ³ / 万円	3.4	3.3	3.2	4.4	年間総配水量 / 有形固定資産	有形固定資産に対する年間総配水量の割合
配水管使用効率	m ³ / m	8.1	9.1	9.1	8.0	年間総配水量 / 導送配水管延長	管路総延長に対する年間総配水量の割合
施設利用率 (対施設能力)	%	66.9	67.6	67.9	50.1	1日平均配水量 / 配水能力 × 100	配水能力に対する配水量の割合
有収率	%	79.0	79.0	80.3	77.6	年間総有収水量 / 年間総配水量 × 100	配水量のうち収益につなげた割合
繰入金比率 (収益的収入分)	%	43.4	42.7	41.7	12.1	他会計繰入金合計 (収益) / 総収益 × 100	収益的収入のうち他会計依存度
繰入金比率 (資本的収入分)	%	0.0	25.4	0.0	34.2	他会計繰入金合計 (資本) / 資本的収入計 × 100	資本的収入のうち他会計依存度
3. 老朽化の状況							
有形固定資産減価償却率	%	40.7	38.0	34.5	48.4	有形固定資産減価償却累計額 / 有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価	償却資産の減価償却の進み具合。資産の老朽化度合いを示す。
管路経年化率	%	8.1	8.8	8.1	18.6	法定耐用年数を経過した管路延長 / 管路延長 × 100	管路の老朽化度合いを示す。

※ R3平均：令和3年度経営指標（総務省）給水人口5千人～1万人の団体平均値

第6 審査意見

1 審査結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、経営成績及び財務状態が適正に表示されているものと認める。

(1) 業務概要

給水人口は111名減少するも、給水世帯数は、8世帯増加したことにより普及率が前年度比0.3ポイント増加した。

しかし、配水量が1.0%減少したのに対し、有収水量も1.0%減少したため有収率79.0%と前年度と同率となった。1m³当たり給水収益は、前年度比0.2%低下した。

建設改良事業では、材木町地内の渋井第2踏切横断配水管の布設替工事を実施したほか、各水源地及び配水池施設の電気設備及び機械装置の更新工事を施工した。

(2) 決算及び予算執行状況（当初予算比、消費税含む）

①収益的収支

営業収益は予算を3,178千円上回り、営業外収益は予算を4,683千円下回ったことより収入合計では予算を1,505千円下回った。支出は営業、営業外費用合わせて10百万円予算を下回った。この結果収入合計2億67百万円、支出合計2億32百万円、収支差引額は34百万円で予算比9百万円の増額であった。

②資本的収支

資本的収入は企業債の発行なく、また国庫補助金を伴う大きな建設事業の実施も無かったことより収入は0円。支出は建設改良費の80,830千円と企業債償還金の82,448千円で、163,278千円であった。この結果、収支差額は△163,278千円となった。なお、この収支不足額については、「消費税等資本的収支調整額」及び「利益剰余金」「損益勘定留保資金」にて補てんされている。

(3) 損益の状況

営業収支は収益が前年度より1百万円減少したのに対し、営業費用は4百万円減少した。原水及び浄水費853千円増加、配水及び給水費3,604千円増加するも、総係費3,075千円、減価償却費6,228千円減少したため、営業損失は1億16百万円で前年度比3,337千円赤字額が減少した。これにより、営業外収益で一般会計補助金が110百万円（前年と同額）と支

払利息の減少等あり、最終的な当年度純利益は26百万円となり前年度比2百万円の増益となった。

(4) 資産負債及び資本の状況

固定資産は大きな設備投資が無く、減価償却費を差し引き前年度比52百万円減少し22億33百万円となった。また流動資産は49百万円減少して2億77百万円となり、資産合計は前年度比1億1百万円減少し25億11百万円となった。

一方、負債では企業債が当年度発行無く償還分を差し引き82百万円減少し年度末残高7億10百万円となった。他に未払金1百万円や長期前受金7億39百万円等を加えた負債総額は14億52百万円となり、前年度比1億28百万円減少した。

以上の結果、当期利益24百万円を含めた剰余金2億64百万円、資本金7億95百万円を加えた資本の部の総額は10億58百万円となった。

(5) 事業の現状、今後の課題等

- ・有収率は79.0%と前年と同率で一定水準に達しており、今後とも上昇改善を期待する。
- ・水道料の滞納未収金及び不納欠損額は、ここ数年縮小傾向にある。今後も、特に長期多額滞納者に対して給水停止措置等の取組強化により、回収促進するよう願う。
- ・一般会計よりの補助金については1億10百万円で前年度と同額。依存率は43.4%で類似団体平均の(12.1%)には程遠い実情を認識し、当面更なる圧縮に挑戦するよう期待する。
- ・給水費用が水道料金にてどの程度賄われているかを示す料金回収率(供給単価/給水原価)については、これまでも問題視されてきたが、類似団体平均が82.8%であるのに対し当町は50.9%程度で極端な不採算を示している。他に比し費用は1.4倍かけているが、水道料金は1割7分程安い実態にある。

2 まとめ

公営企業経営の基本原則は「企業の経済性の発揮及び公共福祉の増進」である。住民生活に欠かすことができない水道水の安全・安心な供給とサービスの充実のために、経営信頼度の向上や事業の将来にわたる安定のための健全経営の確保が求められる。

ここ数年における業務面での料金収納方法の効率化、滞納管理強化、有収率の向上、収支面では経費節減等による収益性の向上、事務処理面での企業会計への適応、これらの地道な改善努力の跡は認められるところである。

しかしながら現状は依然「高コスト・低料金」に起因する明らかな不採算構造にあり、一般会計補助金による多額の損失補填が恒常化している。

コストダウン努力もさることながら、減価償却費のみでも給水収益を大幅に上回る現実を目を背けることはできない。利用者である住民に負担を強いることにはなるが料金体系の全面的な見直しは避けられない状況にある。

水道は住民生活の重要なライフラインである。地震、台風、豪雨など最近の異常気象による自然災害への対応等、体制の強化に努め、町民に対しいつでも安全・安心で良質な水道水を供給し、次世代へ確実に引き継いでいかなければならない。

町民に対し、水道施設等の現状や課題についての理解や協力を求め将来にわたり持続可能な水道事業となるよう取り組んでいただきたい。

以上

